

- 1 派遣期日 平成27年11月13日（金）
- 2 研修先 学校名 小野市立小野東小学校
所在地 兵庫県小野市天神町1185-1
<http://www.onohigasi.ed.jp/>

3 研修内容

研究主題 「生きる力をはぐくむ学級経営」
～学びを深め合う学級集団づくり～

(1) 公開授業
(2) 講演会「個性を認め合い、支え合う学級づくり」
関西国際大学 教授 中尾 繁樹先生

(1) 公開授業参観

○「インタビュータイム」

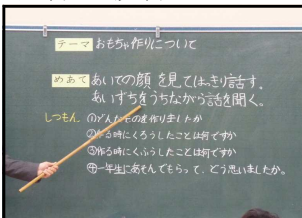
①「インタビュータイム」のねらい

- ・学級の友だちと互いに聞き合う活動を繰り返し経験し、自分の思いや考えを受け入れてもらえる、自分を認めてもらえているという安心感を味わい、学級の中に自分の居場所を感じることができる。
- ・友だちと積極的に関わろうとする意欲をもって学級生活を送ることができる。

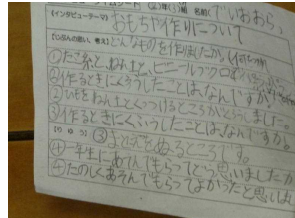
②「インタビュータイム」の実施

- ・「話す・聞く」力を伸ばすための一つの手立てとして、国語教育課程外の朝の10分間のチャレンジタイムを活用して行っている。
- ・各学年で、月毎にテーマとめあてを決めて行っている。

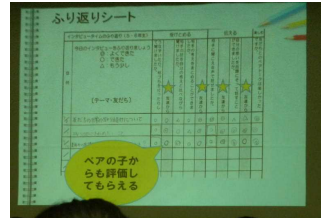
実際の板書



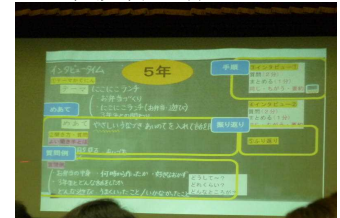
ワークシート



振り返り



5年板書全体



○「対話」

①「対話」のねらい

- ・指導講話を受けた長谷先生による『対話が成立する4つのポイント』

①相手そのものを受け入れる。 ②相手の話を理解する。

③相手の意見に反応する。 ④対話を進める。

を押さえて「話す・聞く」力を高めるための指導を継続して行うことで、授業の中の対話の質が高まり、1時間の授業のめあてを達成するための意見交換の場が児童相互の対話によって深め合う活動にすることができる。

②「対話」の実施

- ・ペアやグループなどの少人数による対話
- ・少人数による対話の前には、「対話に必要な材料＝課題に対する自分の考え」をもった上で対話できるための事前の書く活動
- ・授業の山場を深めるために必要な「教師の発問の質」を校内授業研で研修

○「話し合い活動」

①「話し合い活動」のねらい

- ・自分たちの力で、学級の課題を解決する力を育てる。

- ・よりよい学級をつくろうと話し合う態度を育てる。

②「話し合い活動」の取り組みと様子

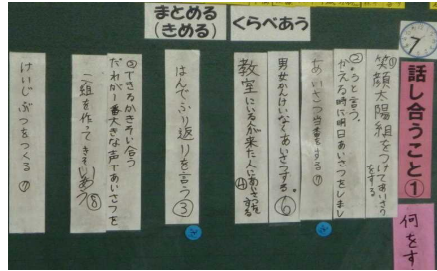
4年 学級活動 「あいさつキャンペーンをしよう」から

- ・話し合いの流れを示し、見通しをもたせる板書構成。
- ・目安の時間を示し、時間を意識させる。
- ・賛成・反対マークで、話し合いの過程を視覚的に分かりやすくする。
- ・グループでの話し合いを図式化していき、考えをまとめやすくする。
- ・自分の意見を述べるときには、理由も付けて発表する。

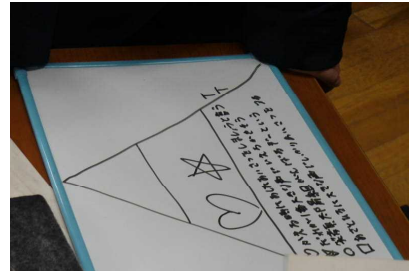
全体が見通せる板書構成



視覚的効果（時間・マーク）



グループの話し合いを図式化



（２）講演 「個性を認め合い、支え合う学級づくり」

関西国際大学 教授 中尾 繁樹先生

○学級は、子どもたちにとって、そして教師にとっても居心地のよい場所であるべき。

- ・教師は最大の環境（声・スピード・子への返し・立ち位置）
- ・個の実態を知る。 数値化し、教育実践を重ね、変容の数値化を行う。
学級会経営案と具体的な手立てを考える。

○学級経営は授業で

分からない子をつくらない

・どこでつまづくのか。
・教師は実態を把握しているべき。

→

・手立てを準備してあげればいい。
学習形態・学び合い

→

・その子にだけかかる時間を最小にして、他の子も見れる時間もつくる。

↑
そのためには、実態把握と手立て

学力レベルの下層の子

- ・「できる」安心感
- ・授業への参加意欲をもたせる

→

分かりやすい授業の展開
確かな学力の定着

これが基本

○子どもたちに、好かれていますか。

○子どもたちにとって、安心できる場所になっていますか。

4 感想

この研修で、子どもたちや教師にとって、教室はどんな場所であるべきか、また、子どもの実態把握時に子どもの何を見るのかについて考えさせられるよい機会となった。特に目に見えない部分を客観的にどうとらえていくことが大切なのかや、実態把握が適切な手立てを講じることの基本になることなど再確認できた研修となった。

「日々の積み重ねを大切に、教師は最大の環境」という言葉が一番心に残っている。この研修を生かし、「全体のプランはどうだったのか」そして「一人一人がどんな力をつけることができたのか」「その手立ては適切であったのか」をいつも謙虚に振り返りながら、温かみのある学級経営をしていこうと思う。

最後に、遠く離れた地でも、子どもたちの教育のために日々研鑽する先生たちの姿を目の当たりにすることで、教職としての初心に立ち返ることができた。今後更に研鑽していきたい。